



このまま力が

昨日の5時限目は研究授業ということで、19名もの先生方が見学にいらした。さすがにあれだけの人数になると、あの広い13R教室のテラス側サイドを活用しても、人が一杯という感じだった。教室に入りきれなかったO塚先生は廊下で見学していらしたが、私が「鬼」のことを話題にするたびに、ニヤニヤしていらした。後で話を聞くと、「5分前からあれだけの多くの先生方がいらしたので、さすがに13Rの生徒たちも緊張していましたねえ〜。だって、みんな自分の席に座って、前を向いて正しい姿勢でお弁当を食べてましたもの…。ウ〜ム。それを横で聞いていたT畑先生は、「それだけ緊張していても、やっぱりお弁当は食べるんですね…」

いやはや、T畑先生らしい反応で、この会話は結構笑える。しかし、まあ、君たちはそれほど緊張はしていなかったのであろう。

ちなみに、授業のやり始めは、私はそれなりに緊張する。同じ教科のプロの視線を感じるのは、やはりそれなりにプレッシャーなのである。だから、例えば最初の質問でうまく答えが出てこなかったりすると、なかなかいつものペースに乗れなかったりするのだが、今日は最初に当たった10+6の●●さんがしっかり答えてくれたので、結構ありがたかったりする。

＊

授業の後には、見学された先生方の感想を聞いたり、ご質問にお答えしたりする時間を設けてあるのだが、今日先生方の間で話題になったのは、●●くんの答えの素晴らしさ。第一段落で鬼が登場するので、「当時の人は鬼をどう思っていたと思う？」と、答えのな

い難しい質問したのだが、●●くんは、「実は信じていなくても、何か困ったことが起こった時とかに、そのせいにしたりする存在なんじゃないでしょうか」と、もう模範解答バッチリ！みたいな答えで、先生方はすっかり感心していらした。ちなみに、私もあまりの素晴らしさにビックリしてしまって、せっかくの答えを十分に授業に生かすことができず、そのことが今回の授業の一番の反省点である。(だから、上の引用の記憶もあいまいで、ちょっと格好良すぎかも…笑)

その他、誰かさんのノートを覗いた先生からは「予習がしっかりしてあるし、助動詞や係り結びにも印が付けてあるのは、先生がそう指導しているのですか？」とご質問を頂いたが、私は「訳せ」と言っているだけで、助動詞や係り結び云々の指示はしていないので、その誰かさんは、きちんと自分なりに勉強をしていたのだろう。立派である。

しかし、考えてみると、みんなそうやって勉強しているのである。我々教員が指示するのは最低限。そこに、自分なりの工夫を付け加えて、どれだけプラスαの勉強を積み重ねられるかが大切なのである。前回の助動詞のグループ学習の際にも、すごいノートを作っている人の存在に気がついた人もいるに違いない。そうやって、友だちのイイ面を学びながら、力をつけていってほしいものである。

その他、積極的に手を上げる姿勢や、質問に対する答えの早さ、その的確さを多くの先生方が褒めてくださっていた。いやはや、13Rもなかなか大したもののである。このまま力が伸びてくれるとイイんだけど(笑)。